

LTD 話し合い学習法による初年次教育

古庄 高
神戸女学院大学

1. はじめに

本日は、協同学習の方法の一つである LTD 話し合い学習法について、私が 2011 年度前期の授業で実践した内容と結果をご報告したいと思います。

LTD 話し合い学習法は、安永先生はもちろん、関田先生も優れた実践をされていますし、他にも優れた実践をしている先生方は大勢いらっしゃいます。ところが私は、この学習法の経験が十分にあるとは言えず、このような場所で報告するのはおこがましい気がします。ただ、定められた手順に従って授業を進めることによって、私のように経験の乏しい教師でも、学生から大変歓迎される授業をすることができました。期待以上の学習効果が得られたという実感があります。そこで、敢えて報告させていただく次第です。

今回のテーマは初年次教育ですが、LTD 話し合い学習法ほどの学年で取り入れても、素晴らしい学習効果が得られると、私は思っています。

最初に、LTD について簡単に説明します。

LTD とは Learning Through Discussion の頭文字をとったもので、話し合いを中心にした学習という意味です。今から 50 年ほど前に、アメリカの社会心理学者 W・F・ヒル先生が考案した協同学習の一技法です。日本では、安永先生の『実践・LTD 話し合い学習法』という著書があります。私もこの本を読んで、LTD を始めました。

LTD は、予習とミーティングという二つの活動によって構成されています。読む、書く、話す、考える、聞くなど、さまざまな技能を使う、総合的な学習法です。学生は、能動的かつ主体的に学習する必要があります。特にミーティングでは、仲間との話し合いが活動の中心です。学生は活動を通して、学ぶ楽しさを実感できるでしょう。こうした特徴は、初年次教育のねらいを実現するためにも非常に有効ではないかと考えられます。

2. 効果的な協同学習のために欠かせない五つの要素

予習とミーティングについて見ていきましょう。

予習用の「LTD 過程プラン」が定められており、それに従って学習課題のテキストを読み、レポートを書きます。学生が「何を書けばよいか分からない」と戸惑わないよう、レポートに書くべき内容は、同プランのステップ 2～7 に次のように定められています。

ステップ 2 では、テキストに使われている重要語彙や知らない語彙の意味を調べます。ステップ 3 では、テキストの著者の主張を自分の言葉でまとめます。ステップ 4 では、著者がテキストで持ち出した話題について調べます。ステップ 5 は、学生は著者の主張や話題について、学生が既に持っていた知識と関連づけてまとめます。ステップ 6 では、テキストの内容について、学生自身の考え方や生活態度、行動などと関連づけて考察します。ステップ 7 では、テキストについ

て学生が評価をします。

このようにステップ5からは、学生が高校までの学習ではあまり体験しないと思われる課題、つまり、知識を他の知識や自分自身と関連づけて考察します。

レポートを書いた後は、ステップ8としてミーティングのリハーサルをします。自分がまとめた著者の主張や著者の話題、あるいは自分の知識を統合してまとめた内容を、他者にわかりやすく伝える練習をするわけです。

以上を済ませた上で、授業に臨みます。

ミーティングは小グループで、60分間行います。何を話し合うかは、「ミーティング用LTD過程プラン」に定められています。

ミーティングを充実させるためには、協同学習の質を高める必要があります。効果的な協同学習を行う上で欠かせない要素は、次の五つであると考えられます。一つめは、集団内に互恵的な協力関係ができていないこと。二つめは、集団の一人ひとりが、個人としての責任と集団としての責任を自覚していること。三つめは、集団内で活発な相互交流が行われること。四つめは、対人的技能やグループ技能を身につけること。五つめは、集団の改善手続きが決められていること。この五つを備えた集団では、LTDのミーティングの質も非常に高くなります。

3. 自主的に予習し、ミーティングに参加し、互いに学び合う

私は、2010年度からLTDによる授業を始めました。前期に担当した2年生の文献ゼミ、後期に担当した1年生の基礎ゼミのいずれでも、LTDによる授業を行いました。2011年度は、前期に1年生の基礎ゼミと3年生の専攻ゼミでLTDによる授業を行いました。

2010年度に1年生を担当した時は後期のゼミだったためか、特に初年次教育を意識はしませんでした。ところが2011年度は前期が1年生のゼミだったので、初年次教育を意識して取り組みました。大学に入学したばかりの1年生に、今まで自分が受けてきた学校教育とはどのようなものだったかを改めて考えさせようと、荻谷剛彦先生の著書『学校って何だろう』を学習課題(テキスト)に指定しました。

2010年度、自分の授業に初めてLTDを取り入れる時は、不安な気持ちでいっぱいでした。まず、「学生が予習をしてこないのではないだろうか」と気がかりでした。「全員が課題を読んだ上、レポートまで書いてくるだろうか」「レポートを書いている学生が大勢いたらどうしようか」と。また、「ミーティングが成り立つだろうか」という心配もありました。それでも、たとえ授業が崩壊してもかまわないと覚悟を決めて、LTDを始めたのです。

しかし、授業を始めてすぐに、そんな不安は吹き飛びました。どの学生も、楽しそうにミーティングをしていたからです。生き生きとした表情で、活発に話し合っていました。じっくり予習をしてきていることがうかがえました。そして、予習に対する意欲はますます高まってきました。クラス全体に温かい雰囲気が生まれ、回を追うごとにゼミの雰囲気が良くなってきたのです。

LTDを取り入れていなかった頃のゼミでは、自分からはなかなか発言しない学生がいました。私が指名して答えさせることはあったものの、そうした学生を十分には授業に参加させられていなかったと思います。積極的に発言するようになってほしいと願ってはいましたが、そのための具体的な働きかけができていませんでした。

ところがLTDによる授業では、先ほど関田先生のお話にもあったように、どの学生も発言する必要があります。自分の考えを話す機会が一人ひとりに回ってきますから、誰も黙っているわけ

にはいきません。おのずと、学生全員が話し合いに参加するようになります。そして授業の後には、学生は非常に充実感や達成感を持つようです。「次回はさらになんぼろう」という意欲につながります。次第に、予習や話し合いへの参加を互いに支え合うような関係がグループ内に築かれ、その結果、遅刻や欠席もほとんどなくなります。教師が何も言わなくても、学生は自主的に予習をし、ミーティングに参加し、互いに学び合うという、良い循環ができてくるのです。

では、LTDを使った授業における教師の役割とは何でしょうか。それは、ミーティング中に学生の様子を観察したり、必要に応じて働きかけたりすることです。ただ、経験が浅い私には、正直、そこまでの余裕がなく、まだ十分にはできていません。全員の様子を注意深く観察できていないことは、大きな反省点の一つです。

4. 学生に学習を好きになってもらえるのがLTD学習法

2011年度前期の1年生のゼミでは、18人の学生を3グループに分けました。初めの3回の授業は安永先生の本を参考にして、学生や私の自己紹介、グループ分け、LTD学習法の理解と習得に充てました。LTD学習法の理解と習得は、私の一方的な説明にならないよう、協同学習の技法を使って学生が自分の力で理解できるようにしました。

4回目の授業から計8回、LTDによる授業をしました。学習課題には、先ほどお話ししたように、苧谷先生の著書『学校って何だろう』を使いました。この本は全8章ですから、授業1回につき1章を扱って1冊を読み終えました。

授業の進め方は、次のようになります。まず、冒頭で「LTD記録紙」を配布し、予習がどの程度できているか、テーマについての関心がどの程度あるかなどを記入させます。そして、約60分間ミーティングを行います。ミーティングが終わったら、学生は「LTD記録紙」の残りの調査項目に記入し、「予習ノート」と一緒に私に提出します。また私は、コメントを付した前回の「予習ノート」を各自に返却します。最後に、次回の学習課題を渡します。ゼミの時間をいっぱいに使っています。

前期最後の授業では、これまでの授業を振り返り、学んだことについて学生に話し合わせました。また、授業アンケートも行いました。このアンケートの内容と結果を、次にご紹介します。

アンケートの問い1は、毎回の予習にかかる時間を聞きました。結果は、学生によって結構差がありましたが、最も短かった学生でも2時間半かけて予習をしていました。平均は約4時間半です。この平均値は、私の経験では短いほうだと思います。他のクラスではもう少し長時間かけて予習しています。

「予習に努力しているか」を聞いた問い2では、学生18人のうち、「大変努力している」が8人、「まずまず努力している」が10人でした。

問い3は、9項目について、「この授業によって自分が変化、成長したと思うか」を聞きました。項目1～6は「読解力」「語彙力」「著者の主張の理解と要約」「既知の知識との関連づけ」「自分自身との関連づけ」「学習課題を評価する力」で、予習やミーティングのテーマになっているものですが、「大変成長」と答えた学生は、初年次の前期であるためか、私の期待よりやや少なくなりました。まだまだこれからの学生生活での伸びしろがあると思っているのではないのでしょうか。項目7「ミーティングに参加し発言する力」と項目8「人の話をしっかり聞く力」は、ミーティングの効果を直接表していると思います。両項目とも、「大変成長」と答えた学生が13人いました。項目9は「好奇心、批判的思考力、表現力などの力」、つまり協同学習に関係する力について聞き

ましたが、「大変成長」と答えた学生は11人に上りました。

続いて問い4と問い5ですが、この二つ、特に問い4は、初年次教育で最も重要なことを示しているとは思っています。

問い4では、小グループによる話し合いが楽しいかどうかを聞きました。18人全員が「大変楽しい」と答えました。ここにこそLTDの素晴らしさが表れていると、私は思います。初年次教育の目的は、学生に学習を好きになってもらうことだからです。問い5では、小グループによる話し合い学習が、自分にとって効果的かどうかを聞きました。「大変効果的」という学生は16人でした。

会場の皆さんにお配りしたレジュメには、アンケートの自由記述を3人分載せています。授業で目標にしていることをしっかりつかんで書いてくれていると思われる、一人目の学生の感想をご紹介します。「最初のうちはLTDという学習法に戸惑いましたが、話し合うという事についてたくさんの機会が得られ、他の人の意見や、課題への着眼点の違いなどを知ることが出来たので、私にとって、とても気持ちのよい授業でした。予習ノートの作成に最後までこずったのも事実ですが、読んでいくうちにどんどんと今までとは違う読み方になっていくのを感じていました。グループのみんなは課題に対して意欲的でしたので、LTDの話し合いの際、自分以上に読み込んでいる友達をみて、次回はもっと頑張ろうと思えましたし、自分の意見に同意してくれたり、違った見解を教えてくれたりと、刺激になりました。ゼミの皆はとても仲が良く、皆わきあいあいと授業前におしゃべりしたり、ご飯を食べに行ったりできて、大学生最初のゼミがこのクラスでよかったと思えました。話を戻しますが、LTD学習法は高校の授業では扱っていないような方法でしたが、とてもやりがいのある学習でした。これからも機会があれば、ぜひやっていきたいと思いました」。

5. 最後に

今後の課題は、たくさんあります。私の課題は、ミーティングの時の学生とのかかわり方です。特に、学生がテキストの真意を読み誤ったり、大事なポイントを外したりしてしまっている時にどうかかわるべきかが、まだ見えていません。また、「予習ノート」のコメントについても、どう書けば良いのか、学生の勇気づけになるのか、いつも悩んでいます。

学生の課題としては、予習でレポートにまとめた著者の主張や話題を、ミーティングのときに自分の言葉で伝える力が弱いことが挙げられます。

LTDに対して学生は、教師が驚くほど良い反応を示してくれます。私は、自分の授業に取り入れて良かったと感じています。皆さんの中には、LTDは難しいように感じる方がいらっしゃるかもしれませんが、私にもできたことですから、難しいことはありません。ぜひ、皆さんにも挑戦していただきたいと思います。

2011年8月31日

「LTD話し合い学習法による初年次教育」 レジюме

神戸女学院大学 古庄 高

要旨：本発表では、初年次教育と協同教育をつなぐひとつの方法として「LTD話し合い学習法」を取りあげ、2011年度前期の授業実践について報告する。

(I) LTD話し合い学習法

- ・LTD=Learning Through Discussion William F. Hill氏が50年ほど前に考案した協同学習の一技法。安永悟著『実践・LTD話し合い学習法』（ナカニシヤ出版、2006年）
- ・LTD話し合い学習法の構成：〈予習〉と〈ミーティング〉
- ・LTDによる初年次教育のねらい：総合的、能動的、仲間との協同、学ぶ楽しさ

(II) 予習ノートの作成

- ・予習用「LTD過程プラン」

St. 1 課題を読む	St. 5 知識の統合
St. 2 語彙の理解	St. 6 知識の適用
St. 3 主張の理解	St. 7 課題の評価
St. 4 話題の理解	St. 8 リハーサル

- ・ノート作成：⇒課題の読解、語彙の理解、主張の理解と要約、話題の理解と要約
⇒知識の統合、知識の適用、課題の評価

(III) ミーティング

- ・ミーティング用「LTD過程プラン」

St. 1 導入(3分)	St. 5 知識の統合(15分)
St. 2 語彙の理解(3分)	St. 6 知識の適用(12分)
St. 3 主張の理解(6分)	St. 7 課題の評価(3分)
St. 4 話題の理解(12分)	St. 8 活動の評価(6分)

- ・時間制限(各ステップごとの時間制限) 1回のミーティング：60分
- ・ミーティングと協同学習(基本的構成要素)

(IV) LTD話し合い学習法を用いた授業実践の経過

2010年度 前期 2年生「文献ゼミ」(様々な文献)

後期 1年生「基礎ゼミ」(様々な文献)

2011年度 前期 1年生「基礎ゼミ」(荻谷剛彦『学校って何だろう』, ちくま文庫)

3年生「専攻ゼミI」(古庄高『アドラー心理学による教育』, ナカニシヤ出版)

- ・LTD学習法による授業を開始するにあたっての懸念

*予習(課題を読む, 予習ノートの作成)

*ミーティング(授業の運営)

・授業の様子

*楽しそう, 活発, 生き生きした表情, 意欲・積極性, よい雰囲気

*おとなしい学生, 無口な学生, 引っ込み思案な学生⇒それなりに参加, 発言

*授業後の充実感・達成感が, 次週に向けた予習への意欲に

*グループの全員がお互いの予習や参加を支え合う関係(協同教育の効用)

・学生たちは自主的に予習を行い, ミーティングに参加し, 互いに学んでいく。

・教師の仕事=観察(モニタリング)と働きかけ

(V) 2011年度前期「基礎ゼミ」の授業経過

・学生数: 18名, 3グループに分ける

・最初の3回の授業: グループ分け, 自己紹介, LTD学習法の理解・習得

・4回目の授業からLTD学習法を用いた授業を開始, 合計8回の授業

・学習課題: 荻谷剛彦『学校って何だろう』(ちくま文庫)を1章ずつ

・授業の進め方: 「LTD記録紙」の配布, 「事前調査」の項目に記入, 過程プランに沿ったミーティング, ステップ8が終わったら「事後調査」の項目に記入, 前の週の予習ノートの返却, 次週の学習課題を渡す

・最終の授業は前期の振り返り

(VI) 授業アンケートの結果

問い1: あなたは予習ノートの作成にどれくらいの時間をかけていますか? ⇒平均4時間30分

問い2: あなたは予習ノートの作成に努力していると思いますか?

大変努力している: 8人 まずまず努力している: 10人 あまりしていない: 0人

問い3: この授業を通じて, あなたは次の項目で自分が変化・成長したと思いますか?

① 読解力	大変成長: 8人	まずまず: 9人	あまり: 1人
② 語彙力	大変成長: 9人	まずまず: 7人	あまり: 2人
③ 著者の主張の理解と要約	大変成長: 8人	まずまず: 9人	あまり: 1人
④ 既知の知識との関連づけ	大変成長: 8人	まずまず: 10人	あまり: 0人
⑤ 自分自身との関連づけ	大変成長: 8人	まずまず: 9人	あまり: 1人
⑥ 学習課題を評価する力	大変成長: 3人	まずまず: 12人	あまり: 3人
⑦ ミーティングに参加し発言する力	大変成長: 13人	まずまず: 5人	あまり: 0人
⑧ 人の話をしっかり聞く力	大変成長: 13人	まずまず: 5人	あまり: 0人
⑨ 好奇心, 批判的思考力, 表現力などの力	大変成長: 11人	まずまず: 7人	あまり: 0人

問い4: あなたは小グループによる話し合い(討議)が楽しいですか?

大変楽しい: 18人 まずまず: 0人 あまり: 0人

問い5: 小グループによる話し合い学習は, あなたの学習に効果的ですか?

大変効果的: 16人 まずまず: 2人 あまり: 0人

(VII) 授業アンケートの自由記述から

1) 最初のうちは LTD という学習法に戸惑いましたが、話し合うという事についてたくさんの機会が得られ、他の人の意見や、課題への着眼点の違いなどを知ることが出来たので、私にとって、とても気持ちのよい授業でした。予習ノートの作成に最後までてこずったのも事実ですが、読んでいくうちにどんどんと今までとは違う読み方になっていくのを感じていました。グループのみんなは課題に対して意欲的でしたので、LTD の話し合いの際、自分以上に読み込んでいる友達をみて、次回はもっと頑張ろうと思えましたし、自分の意見に同意してくれたり、違った見解を教えてくれたりと、刺激になりました。ゼミの皆はとても仲が良く、皆わきあいあいと授業前におしゃべりしたり、ご飯を食べに行ったりできて、大学生最初のゼミがこのクラスでよかったと思えました。話を戻しますが、LTD 学習法は高校の授業では扱っていないような方法でしたが、とてもやりがいのある学習でした。これからも機会があれば、ぜひやっていきたいと思いました。

2) 小グループでの話し合いだと、自分の意見を発言しやすかった。大きな教室での講義ではなく、知っている友だち同士の話合いの場だったので、最初から抵抗なく、積極的にできたと思う。しかし、高校までの授業とは内容が異なり苦勞した点も多くあった。St. 5 と St. 6 は、何度やっても自信のない関連づけになってしまった。機会があるなら、また LTD 学習法の授業をしてみたい。予習が大変だったけど、いろんな力がついたと思う。

3) 高校の時も話し合いをする機会は多くありましたが、学校というあたりまえとして考えられていることがらについて考え直し、時間をしっかり用いて話し合いをするのは新鮮で、あたりまえについて考えることが少し難しかったです。レポートは St. 5, 6 に苦戦しましたが、毎回の先生のコメントや回数を重ねることで、少しですができるようになったと思います。LTD 学習法は、レポートを書く力だけでなく、話し合う力もつくので、本当によい機会でした。課題文を読むときに、普通に読むのではなく、LTD の方法が自然とでてくるようになったと思います。夏休みに課題図書や他のレポートもあるので、生かしていきたいと思います。大学 1 年の前期でこの学習法を知れてよかったと思います。

(VIII) 今後の課題

- ・適切な学習課題の選定
- ・予習ノートへのコメント
- ・ミーティングへの教員の関与
- ・予習ノートの棒読み(St. 3「主張の理解」や St. 4「話題の理解」)、自分の言葉で話す
- ・お互いの関連づけについての話し合い(St. 5「知識の統合」と St. 6「知識の適用」)
- ・St. 8「学習活動の評価」、LTD 記録紙「自他の貢献度の評価」

参考文献

- ジョージ・ジェイコブズ, マイケル・パワー, ロー・ワン・イン 伏野久美子・木村春美(訳)・関田一彦(監訳) (2005) 『先生のためのアイディアブック』日本協同教育学会
- ジョンソン, D.W., ジョンソン, R.T., ホルベック, E.J. 石田裕久・梅原巳代子(訳) (2010) 『学習の輪』二瓶社
- 安永 悟 (2006) 『実践・LTD 話し合い学習法』ナカニシヤ出版